

# 伊那まちBASE (伊那市)

## 子ども第三の居場所コミュニティモデルとは

地域の子どもたちが気軽に立ち寄れる居場所を週3日以上開所し、地域の人々との交流や体験を通じて人と関わる力や自己肯定感を育むとともに、課題を抱える子どもの早期発見や適切な支援を行う。

実施頻度：週3日以上の運営

実施時間：運営終了時刻は原則として19時以降

対 象：小学生を中心に、子ども（未就学児～高校生）を対象とする。

人 数：1日あたり子ども15名～（子どものみの人数）

スタッフ：マネージャー(フルタイム)1名以上、その他スタッフ1名以上 など

学習支援	食事提供	地域・多世代交流など	その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習支援を希望する子どもを対象に、こどものじかん内で個別学習支援を実施した。</li> <li>・帰国子女の児童に学習支援を週1回行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かぞく食堂というボランティアグループが、伊那まちBASEで調理して、一人親の児童生徒の学習支援をしているさくら教室に月1回、お弁当を配布した。</li> <li>・伊那市のカレー大作戦に協力して、カレーの配布を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生たちが立ち上げ準備から参画して、若者スタッフとDIYやこどものじかんスタッフとして大活躍してくれた。</li> <li>・クリスマス企画、春休み企画を高校生が中心となって企画・運営してくれ、連日大盛況だった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆうちゃんのチャリティーラーメン</li> </ul>

## 成果

2021年11月7日、コロナの感染拡大の状況によって先が見えず思うように広報もできず、地元小学校とのつながりもまだ希薄な中での開所となったが、高校生が準備段階から集ってくれて、居場所づくりに力を発揮してくれた。クリスマスイベント、3月の春休み企画は、様々なプログラム(クッキー作り教室、貼り絵の共同制作、こども放送局、英語で遊ぼう、ボードゲーム等)によって、小学生たちに伊那まちBASEの存在を知らせることができた。伊那まちBASEの魅力は、「高校のお兄ちゃん、お姉ちゃんと遊べること」だと実感した。

## 主な課題

- ・伊那まちBASEがこども第三の居場所「こどものじかん」として活動していることを多くの人に知ってもらうための方法。
- ・自走できるしくみをいかに作るか。

## 地域資源

- ・伊那市社会福祉協議会
- ・伊那まち再生やるじゃん会
- ・上伊那地域振興局
- ・地元農家
- ・地域おこし協力隊

## 2022年度の取組（2年目）

伊那まちBASE

学習支援	食事提供	地域・多世代交流など	その他
<p>・特に教科学習の支援はしなかったが、子どもたちは、伊那まちBASEに来ると誰かに促されることなく、宿題に集中して取り組んでから遊ぶような習慣が定着した。</p>	<p>・さくらカフェ(若者自立支援)が月1回、まち食子ども食堂、夕食のこども食堂を開催。</p>	<p>・商店街で、伊那まちバラぶらりのファッションショー、ジャズライブ、ファミリーフェスタでの魚つりゲーム等、地域の様々な団体・多世代の方と協力してまちの活性化のために活動した。</p>	<p>・おもちゃの病院・ドクター養成講座の開催 ・プログラミング(月2回) ・1周年感謝祭</p>

## 成果

・コロナも落ち着いてきて、活動が多様化し、それぞれが定着してきた1年だった。それと同時に、伊那まちBASEが子どもばかりではなく、スタッフ、ボランティアグループ、高齢者(常連さん)にとっても大切な居場所と感じてもらえるようになった。

・3月に伊那まちBASE立ち上げ時から関わってくれていた高校生たちが卒業して地元を離れたり、在校生もアルバイトをはじめたり(伊那小学校の学童の先生)して、高校生スタッフが減ってしまったが、子どもたちと新たな居場所の魅力を一緒に創ってこれた。

## 主な課題

伊那市が教育移住を推進しているため、多くのご家族が伊那に移住してきている。しかし、孤立感を抱えたり、学校にうまくなじめない子どもへの悩みを持ったり、休日に親子で出かける居場所等の情報などを求めて伊那まちBASEを訪れる方々が多くなってきた。

これらのニーズを把握して、サポート体制や連携の強化をどのように進めていくか。

## 地域資源

・伊那市や会福祉協議会  
・伊那まち再生やるじゃん会  
・上伊那地域振興局  
・地元農家 ・飯田人形劇センター  
・シニア大学 ・チームふくしま  
・coder道場伊那(プログラミング)  
・伊那小学校 学童 ・子育て支援課

# 2023年度の取組（3年目）

伊那まちBASE

学習支援	食事提供	地域・多世代交流など	その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの分野の専門性を持つスタッフと生きものについて学んだり、工作をしたり、料理をしたりと学びを広くとらえて学び合う喜びを共有することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>恩送りカレーのしくみにより、子どもたちや必要な方々に無料で食事提供ができるようになった。</li> <li>地域のボランティア団体や事業者さんが不定期で子ども食堂を開催してくれた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>シニアOBスマホカフェ(指導者:高校生)</li> <li>通り町イベント、ばらフェスタ、ファミフェス)伊那まつりに参加。</li> <li>子どもオープンカフェの開催。(6月)</li> <li>まち食(月1回)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マイクラカフェ (19:00~) 食事提供有</li> <li>おもちゃの病院</li> <li>園児服のリユース活動</li> <li>2周年感謝WEEK</li> <li>伊那市こどもの居場所ネットワーク子ども家庭庁モデル事業(こども送迎バス・オンラインの居場所)</li> <li>サイクリング体験</li> </ul>

## 成果

- それぞれの活動が発展期を迎え、いきいきと活動することができた。おもちゃの病院、園児服のリユースなどは、就学前の親御さんに大変喜ばれた。
- さくらカフェ(若者ラボ)の高校生たちがボランティアでまち食の開催や子どもたちのおやつ作りや交流など活動の支え手となってくれた。
- おやつは、市販のお菓子をなるべくやめて、手作りにするように努めた。子どもたちもおにぎりやクッキー、スコーン、ホットケーキ等は、好評だった。

## 主な課題

- 多様な学びのある豊かな放課後を過ごすことができる居場所をいかに作り続けていくか。
- 移住してきたご家族の支援(不登校児童相談、支援、情報提供等)体制の整備
- ボランティアスタッフの増員、居場所のスタッフ研修
- 持続可能にしていくための運営資金の確保

## 地域資源

- 伊那市や会福祉協議会
- 伊那まち再生やるじゃん会
- 上伊那地域振興局
- 地元農家及び事業者 ・地域おこし協力隊
- シニア大学 ・飯田人形劇センター
- coder道場伊那(プログラミング)
- 伊那小学校 学童 ・子育て支援課

## 3年間の総括（成果・できなかった事など）

伊那まちBASE

### 【成果】

- ・伊那まちBASEのオープンから子ども第三の居場所「子どものじかん」を月曜日から金曜日まで運営し続けることができた。子どもたちの成長していく姿をBASEに関わる多くのスタッフと見守ることができ、節目には共に喜び合うことができた。
- ・子どもの居場所は地域の居場所であることや全世代にとって、居場所が必要であることを実感することができた。
- ・伊那まちBASEの存在価値を地域が地域の方々に浸透し始め、他の地域でも居場所づくりを考えていることから下伊那、上伊那、諏訪の社協や公民館などから視察の依頼が来るようになった。
- ・伊那まちの中心部にあることから、商店街の活性化や大きなイベントを通して、地域交流、多世代交流が活発に行われるようになった。伊那まつりでは、伊那まちBASEが伊那まつり実行委員会の本部としての役割を果たした。
- ・こどものじかんの高校生スタッフが、スタッフ不足の伊那小の学童指導員として来てほしいということで、昨年度から4名の生徒がアルバイトとして学童に勤めている。学童の子どもたちも他の指導員の先生も大喜びしている。また、イベントの告知などを高校生が学童でしてくれることで子どもたちも伊那まちBASEに親しみを持って参加してくれるようになった。高校生も70人以上の学童の子どもたちと接することで、多くを学んでいる。

### 【志が半ばのこと】

- ・通り町にあったニシザワ食彩館が閉店したことも影響しているのか平日も休日も人通りが少なくなったうえ、伊那まちBASEは駐車場を持たないため、来店客がなかなか増えないという課題がある。自走し子どもの居場所を運営し続けていくための方策を3年間考え続け、試み続けてきたがまだ見つかっていない。
- ・伊那まちBASEが子どもたちの居場所と居場所をつなぐプラットフォームとなることにより、伊那市の子どもたちを取り巻く環境がより良いものになり、生き心地のいい地域なるということに気づくことができたが、まだスタートラインに立ったばかりで、目指す地域の道のりはながいと感じている。

## 2023年度 以降の取組（4年目からの目指す姿）

伊那まちBASE

学習支援	食事提供	地域・多世代交流など	その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットや電子黒板を活用した学びの場づくり</li> <li>・</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さくらカフェ（若者ラボ）によるまち食（子ども食堂）</li> <li>・恩送りカレー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマホカフェ</li> <li>・レコード喫茶</li> <li>・おもちゃ病院</li> <li>・マイクラカフェ</li> <li>・</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の居場所をつなぐプラットフォーム</li> <li>・園児服リユース</li> </ul>

## 事業計画など（自由記述）

- ・この3年間の活動実践によって、多様で多彩なコミュニティーが連携し協力し合って地域の子どもを育てることの重要性と可能性を実感するものだった。更なる小さなコミュニティーの創出と支援による子育てコミュニティースペースを達成していきたい。
- ・大人たちが仕事でもないのに真剣に地域活動に取り組んで泣いたり笑ったり喧嘩したり論じ合ったりする姿を子どもに見せることが大事。へんな大人に出会える場所。
- ・子どもも一市民として主体的に活動に参加してもらおう。
- ・恩送りシステムを使った学習支援（子ども～大人）
- ・マイクラなどテクノロジーを使った交流や学習
- ・コミュニティー創出と応援
- ・オープンダイアログ、NVC、アドラーの勇気づけ講座などの研修会
- ・子どもから高齢者までの全世代が伊那まち全体を居場所と感じられて通いたくなるようなまちづくり
- ・自走できる運営費を生み出すための方法を見つけるまで知恵を出し合う。